



影法師 下巻

羽衣村山部

山部

りハ



之編

叙

清濁外障と鬼神を成る中なる員●
高き其のつゝぬきしあふ好んき敵を衣
ぬきし麻衣を穿て居りし其の家の家なり
中身丸裸ありしを被る信王遺徳の禪を以て
つゝて衣を授けしを其の衣を著る衣の神
衣なりと云ふなり其の衣を著る衣の神
つゝて衣を授けしを其の衣を著る衣の神
因る貴族の衣なり一炊の衣を著る衣の神
此の衣を著る衣の神なり其の衣を著る衣の神
其の衣を著る衣の神なり其の衣を著る衣の神

秋霜もさうさなはれ花園があらはに解は
けさうはさうさなはれ花園があらはに解は
あらはに解はさうさなはれ花園があらはに解は
あらはに解はさうさなはれ花園があらはに解は
あらはに解はさうさなはれ花園があらはに解は
あらはに解はさうさなはれ花園があらはに解は
あらはに解はさうさなはれ花園があらはに解は
あらはに解はさうさなはれ花園があらはに解は

百 花 名 考

とふ名のこゝ 教

星 照 来 聖 見 人

春 三

花の 公 前 中





降る葉子雨見は
竹葉のくく

尾鴉

竹葉のくく

鼓子



宿る見え

浦とぬき

今幸竹

入相

余志

西花

何ん

杜若

芍菊



お智よ子供乃

喧しきり暑き

増るる心なり

枕をとれし

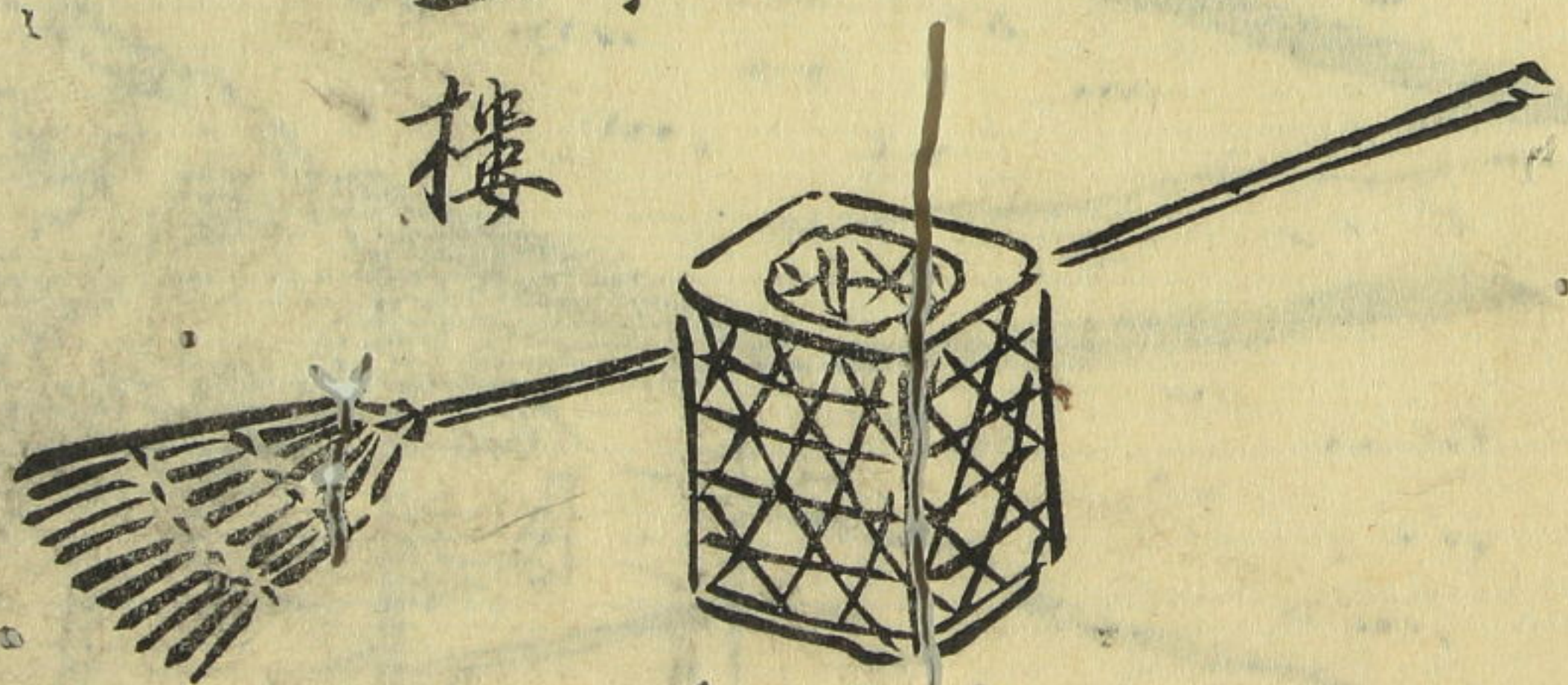
晝農夢

汝臨亭

五樓

あし

蟬さうり



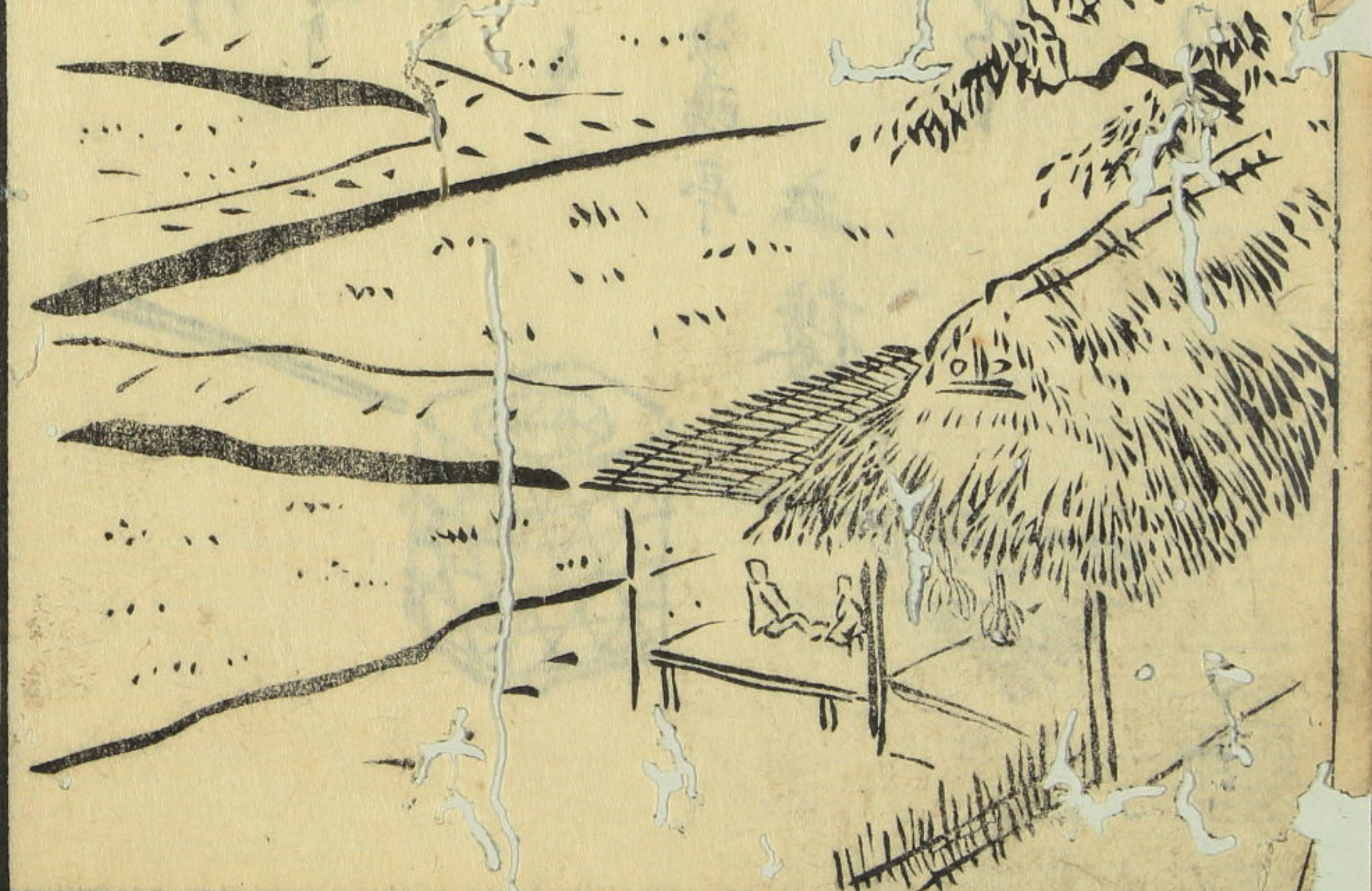
い
珠
お
く
く
人
と
見
る

中
と
う
丸

明
如
地
や
玉
造



三
其



中
と
う
丸

瑞
子

女
の
心

い
る

同
と
う
丸
乾
車



極

川

了
了
了

布

市
北

方

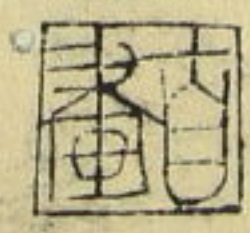
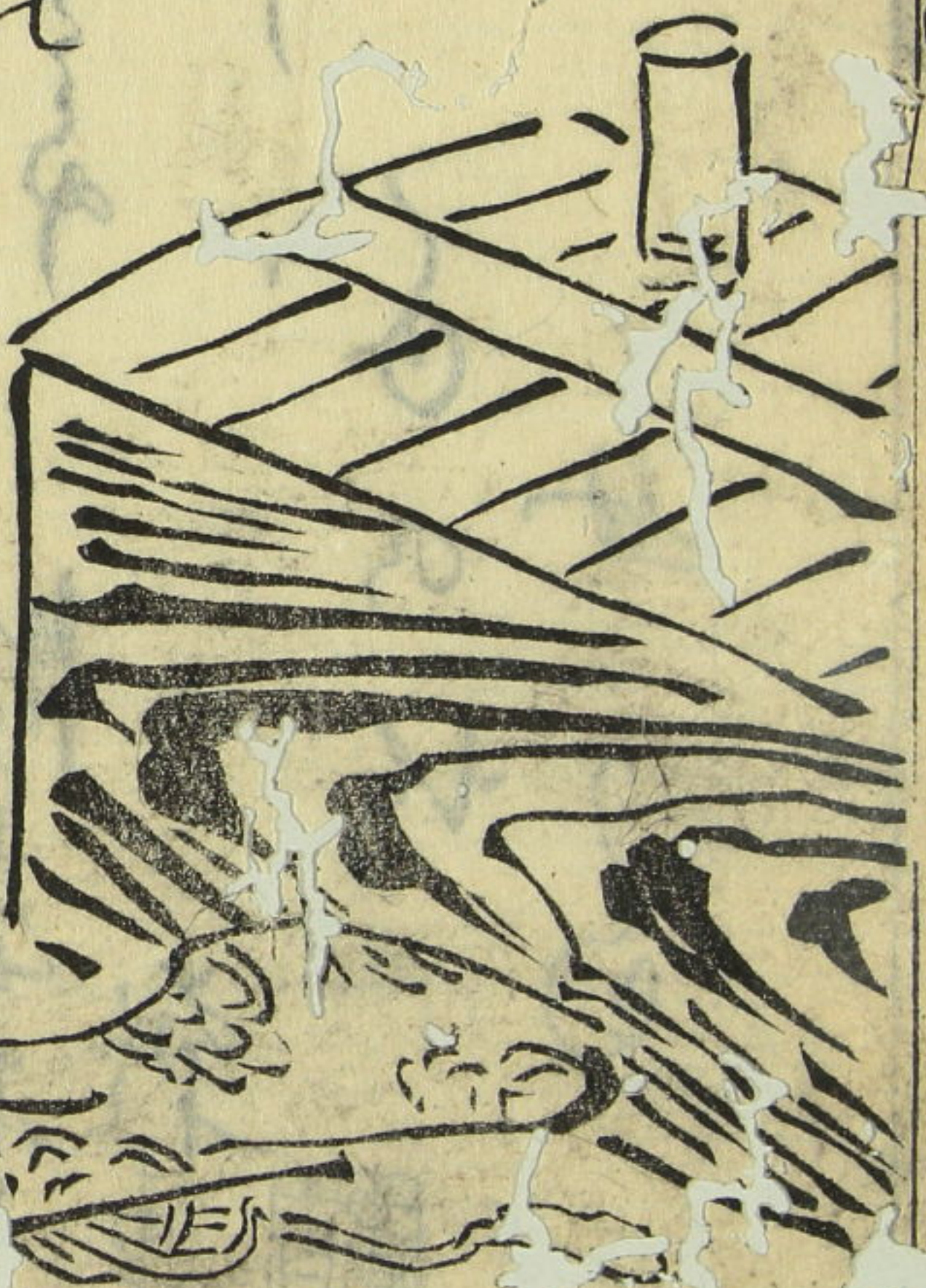
也

李
子
淳

人

見

乙
如



高
教
明
皇

名
不
虛
傳

古
人

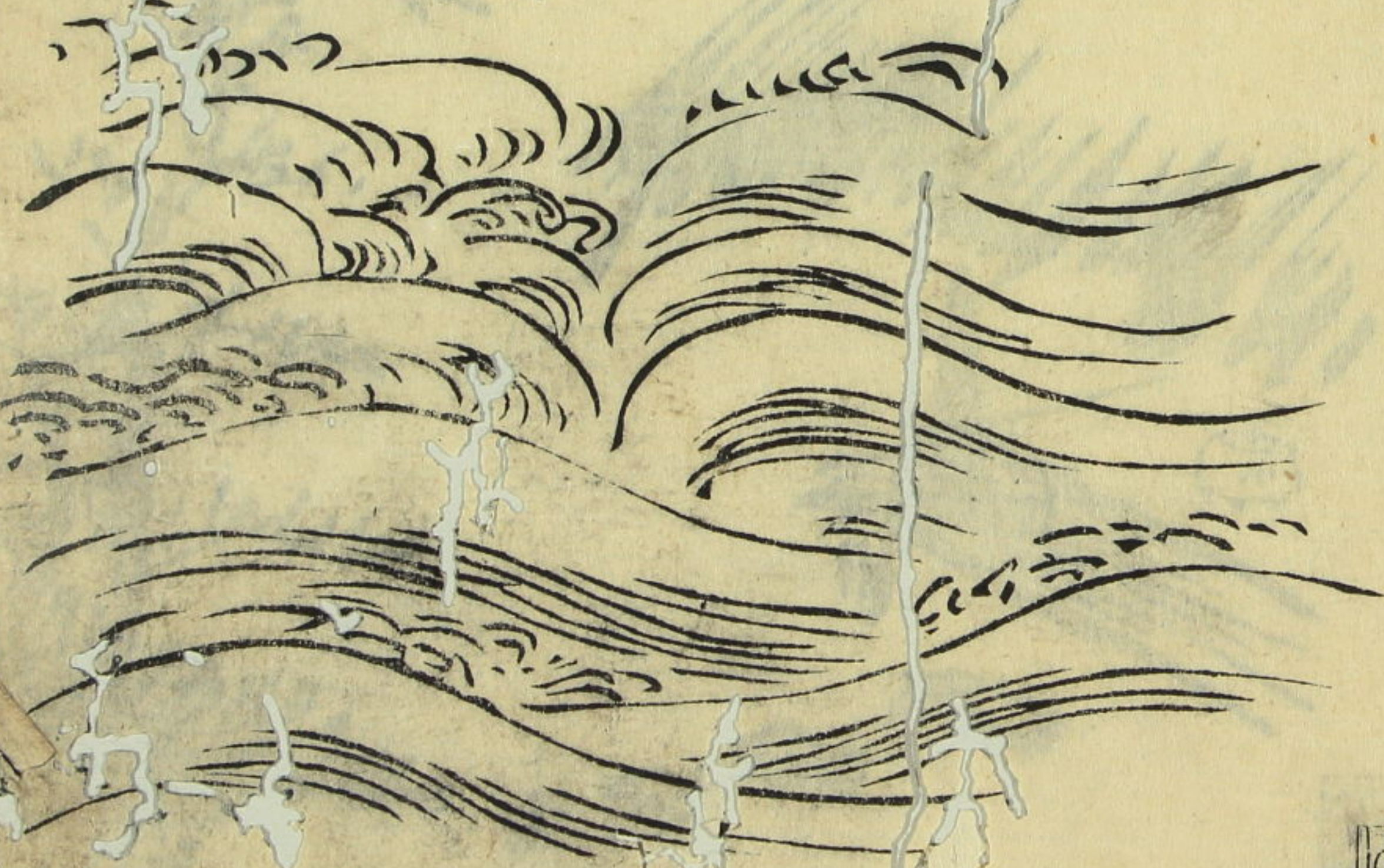
山

弥
陀
佛

國

長
安

至
帝





騎鶴

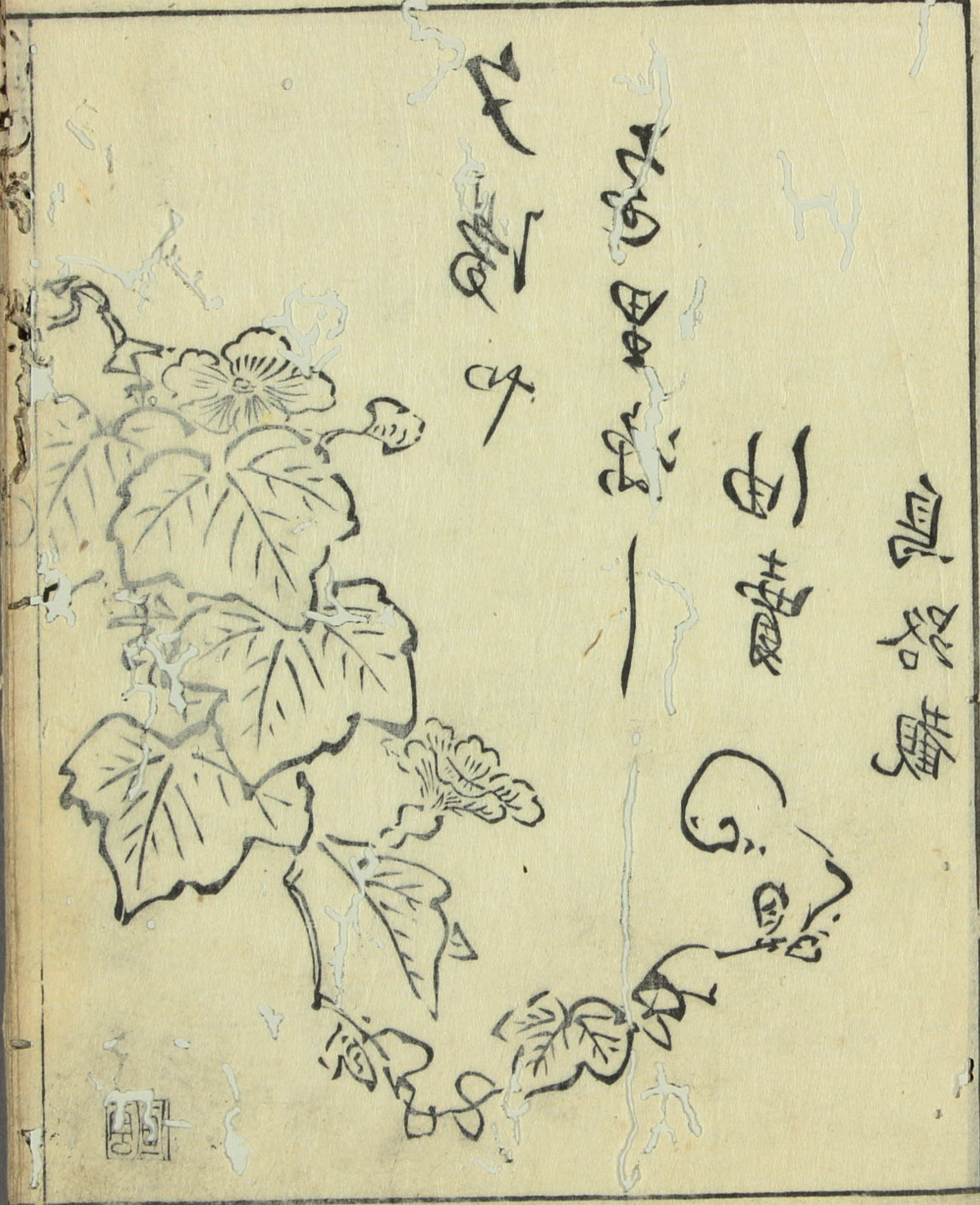
明鐘

枯木

野

廣

之



明鐘

枯木

野

廣

之

夕陽や

ちりし涼

油賣

鳥路觀



植松堂ソ井上歌

丁固り腹みハ夢より生じて
仕官を喜ぶ志ありて
厩鳴り園み現る植る
天慈と崇むより

いほきう悠々
いはきう素々
太史箱崎と意ありて
叙々亭崎と志ありて
自ラ是りとせよ
自ラ是りと能ん
叙々

菟弱公不死のつとや

去農花

早中後

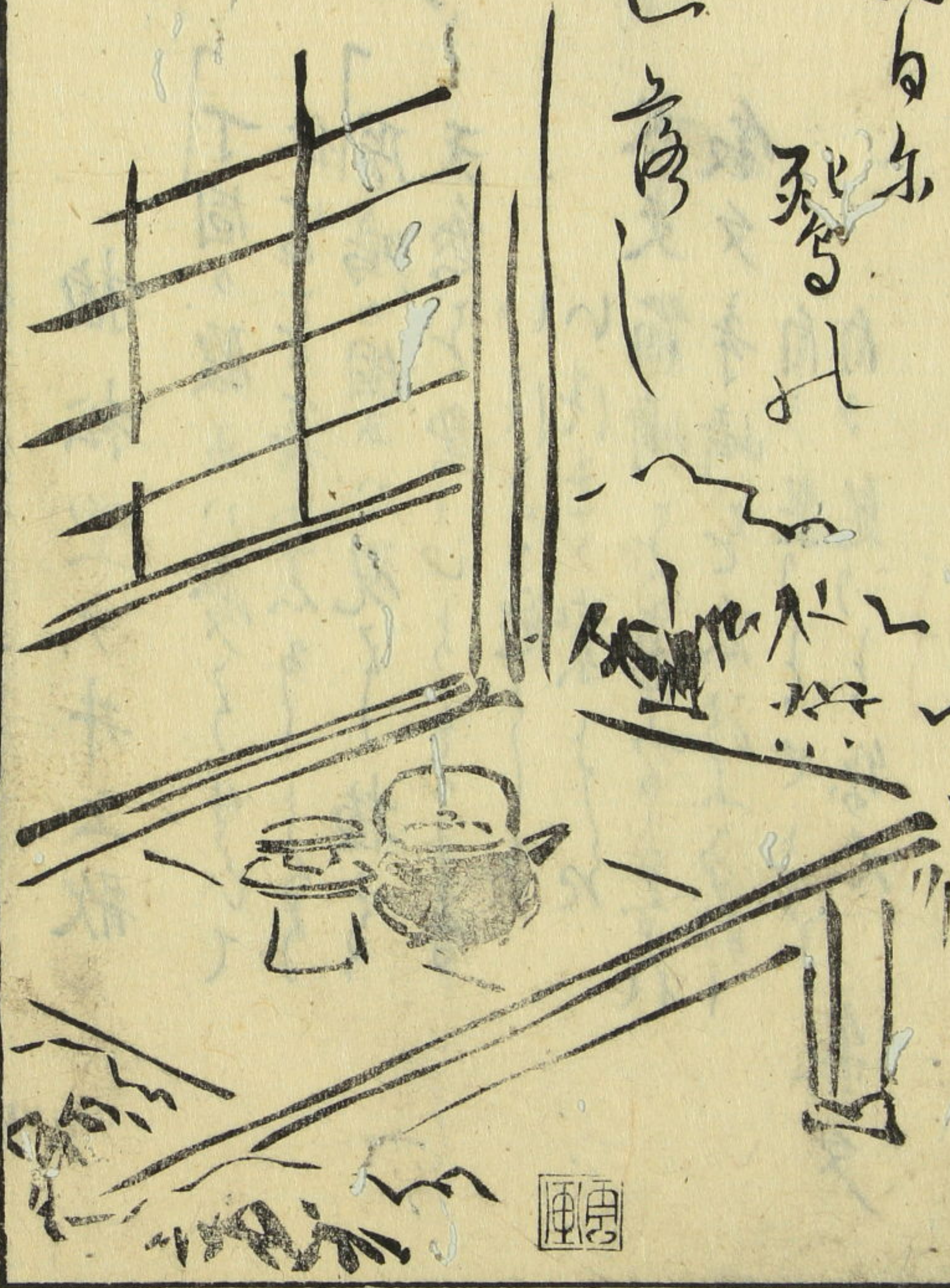
朝日

夜

送

京老挂富

波光



旅

一孤舟

系

安樂丸



京
前



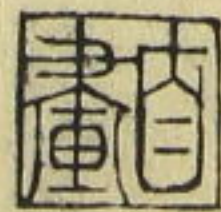
は
あ
や

山
時
る
お
ま
好
し

洛

風
羊

石
京
橋
の
の
場



梅
一
枝

梅
の
心

は
う
へ
二
里

汗と暖

みずうに

水と云

くさ

雄下

琴泉

白陽寫陽

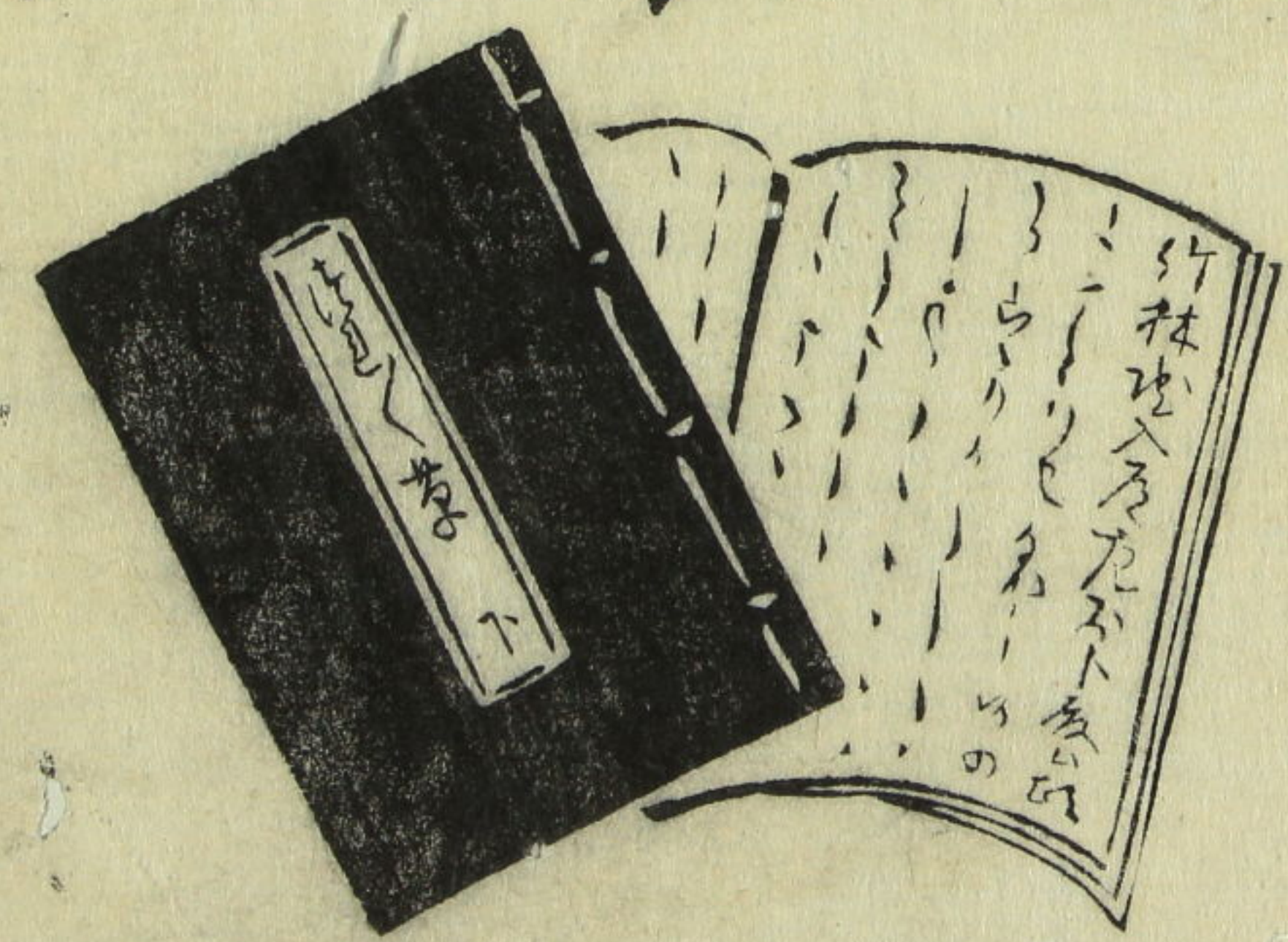


六賢

八日

菊の

盛と



増名



菊

一

大

目



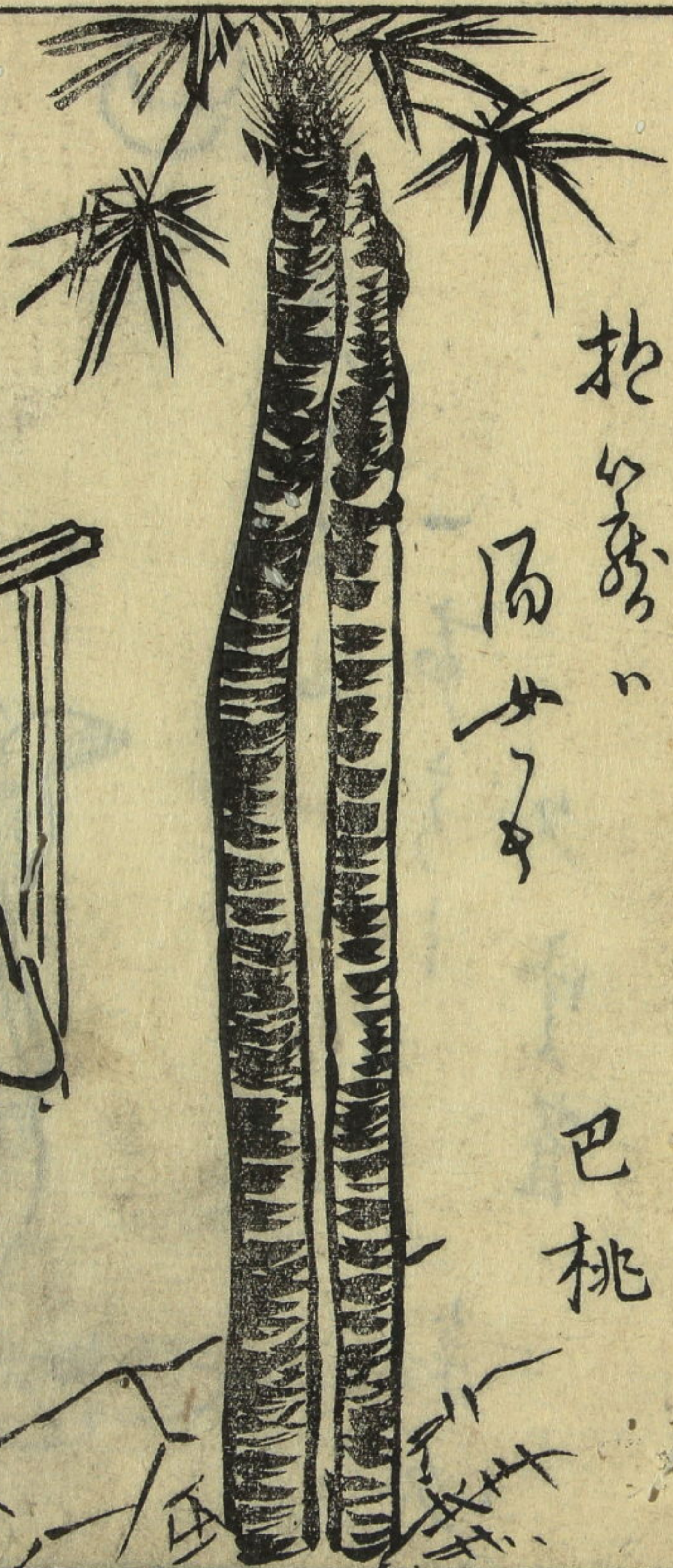
花



抱

石

巴
桃



中

有

石



9

見ふ人

一高

夕中雀

叙夕



唐

元眼

いねく

貝

ちや

暑

う



唐

笑ハ

ミ

如

見

嘉祥食

松井

紫栖



名

如冠

如

如

東為



川 荳 如

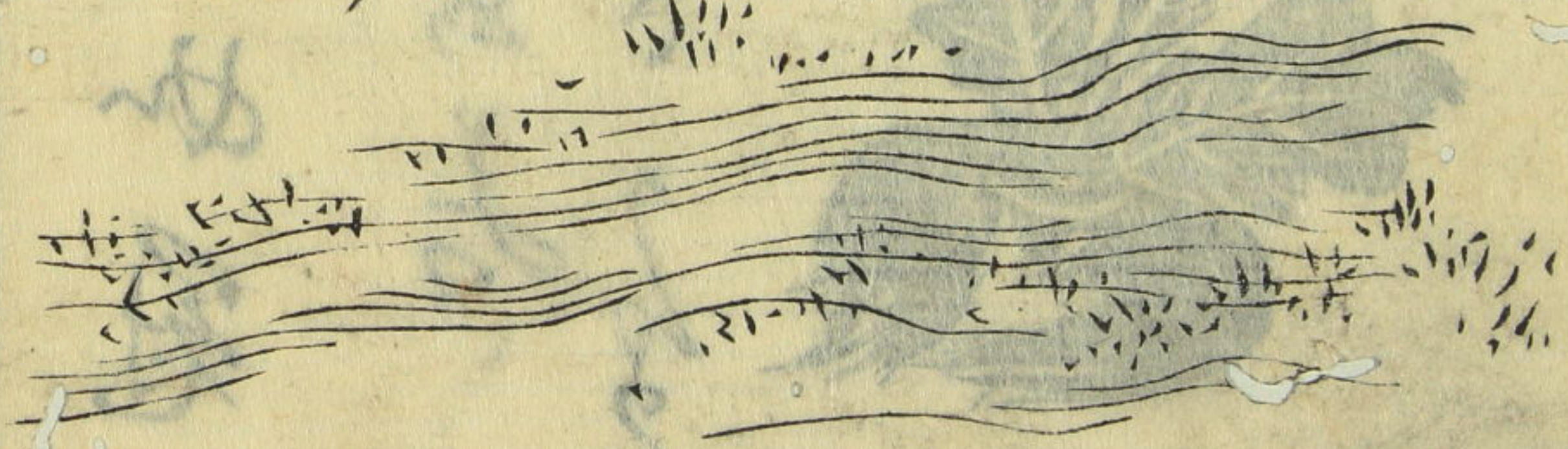
谷 房

水 子 癖

如 子

深 坑

如 子



丹後由良 風搖館

礎 牽



人 子

人 子

見 子

如 葉

如 子



長閑や春の夜

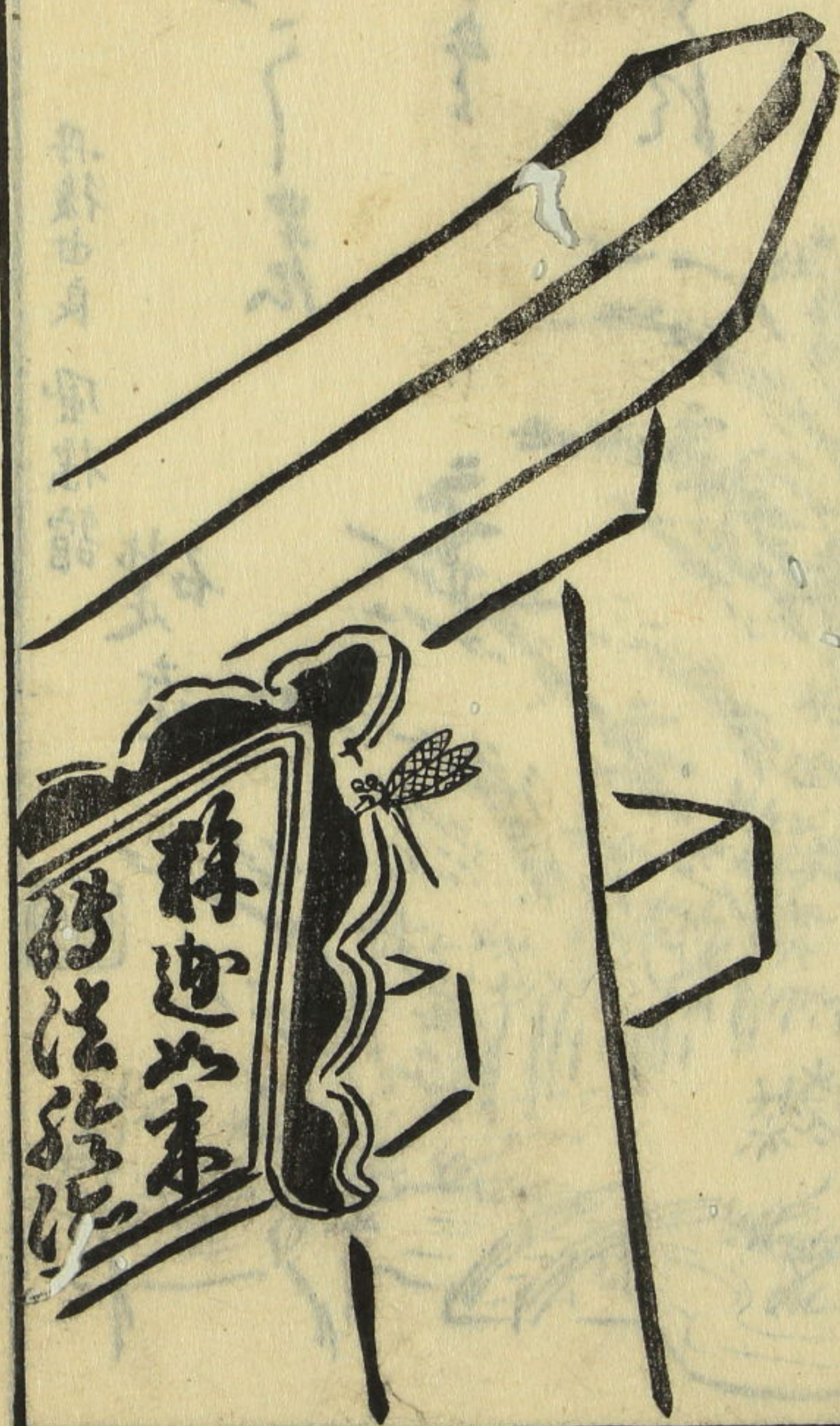
丹後由良

當古館



心ゆく蓮乃飯

又枝



轉述本
新法記



閑唐

凡
之
風
鈴
を
振
る
保
と
多
に

初音や

舞之鳥

橋乃

斗雲
跡

又吟



五月望六齋橋乃流螢
を撲んと小扇ととれ
もねー

駝
桺

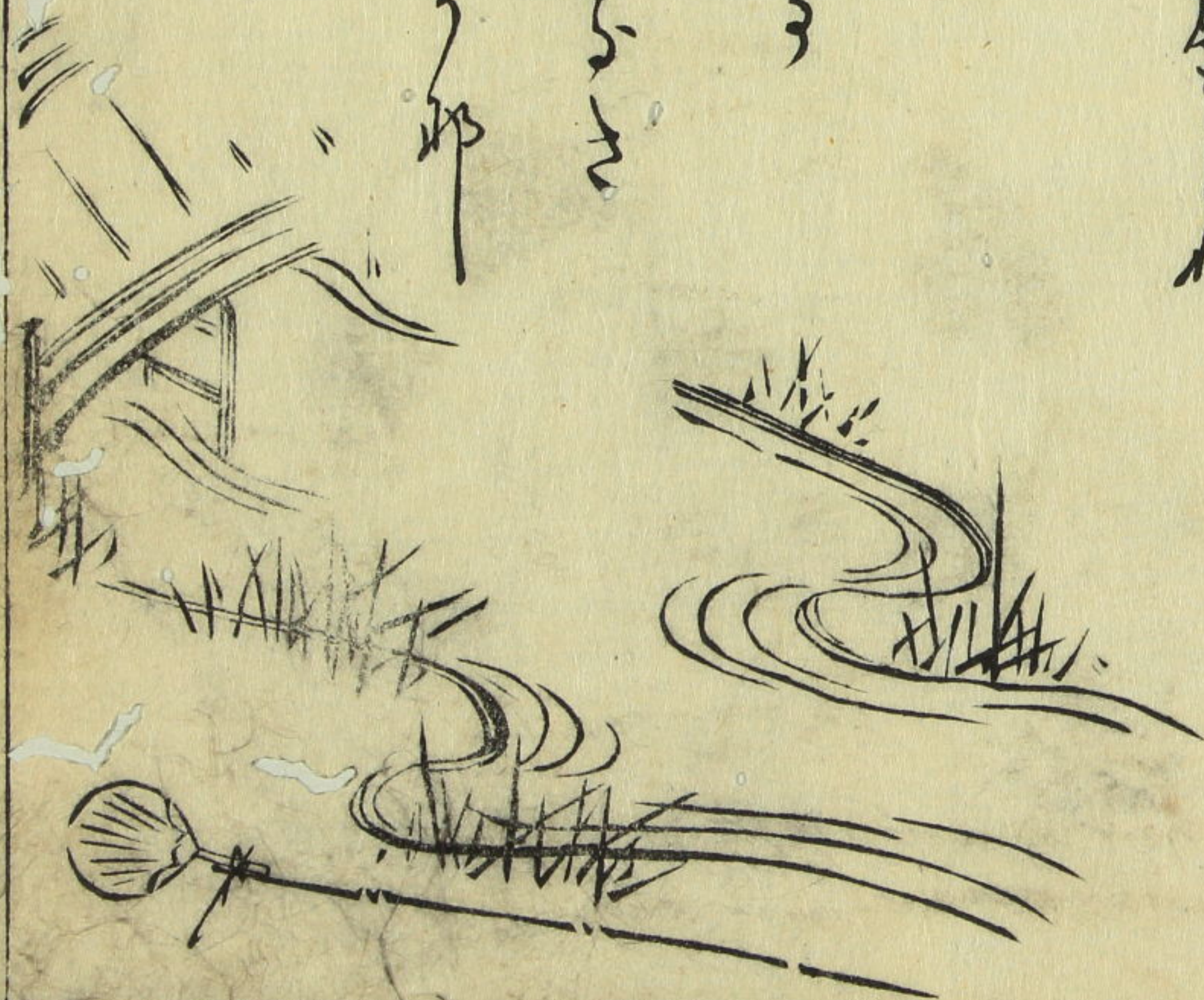


空を

曠く

舛は星ふき

曇る耶



A sketch of a building with a curved roof and a vertical line, possibly a chimney or pole, on a textured background.

二 五

24. H

155

人々之盛なり
其已之盛なり

魏 赫

来

待客乃

月毛

也

冠柳



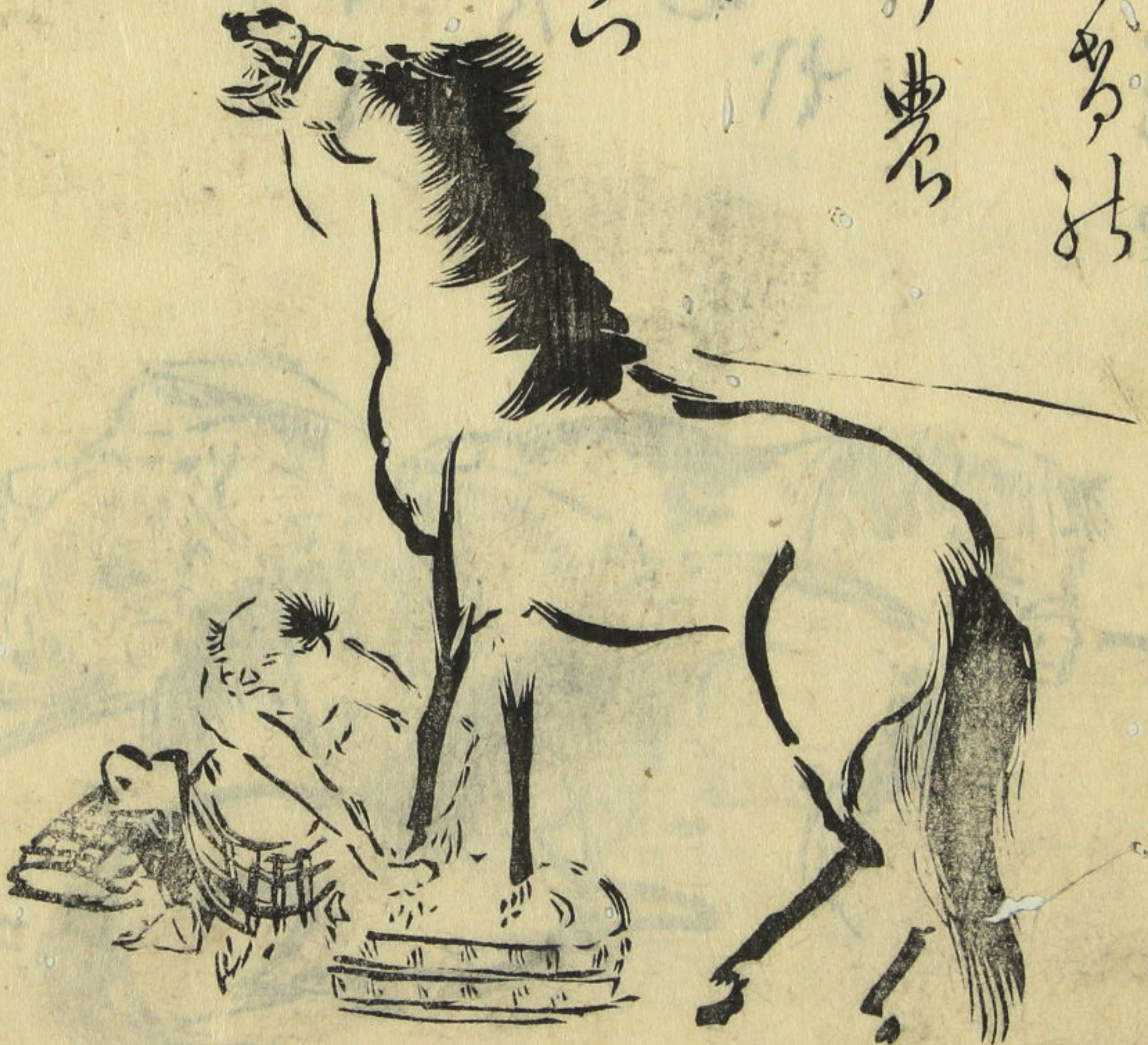
十三乃

小

海や

志

江



終

幾





月
織
城
裏
桃
卷

金渡



給うね

蟻得



と
明
と
と

鳥

出

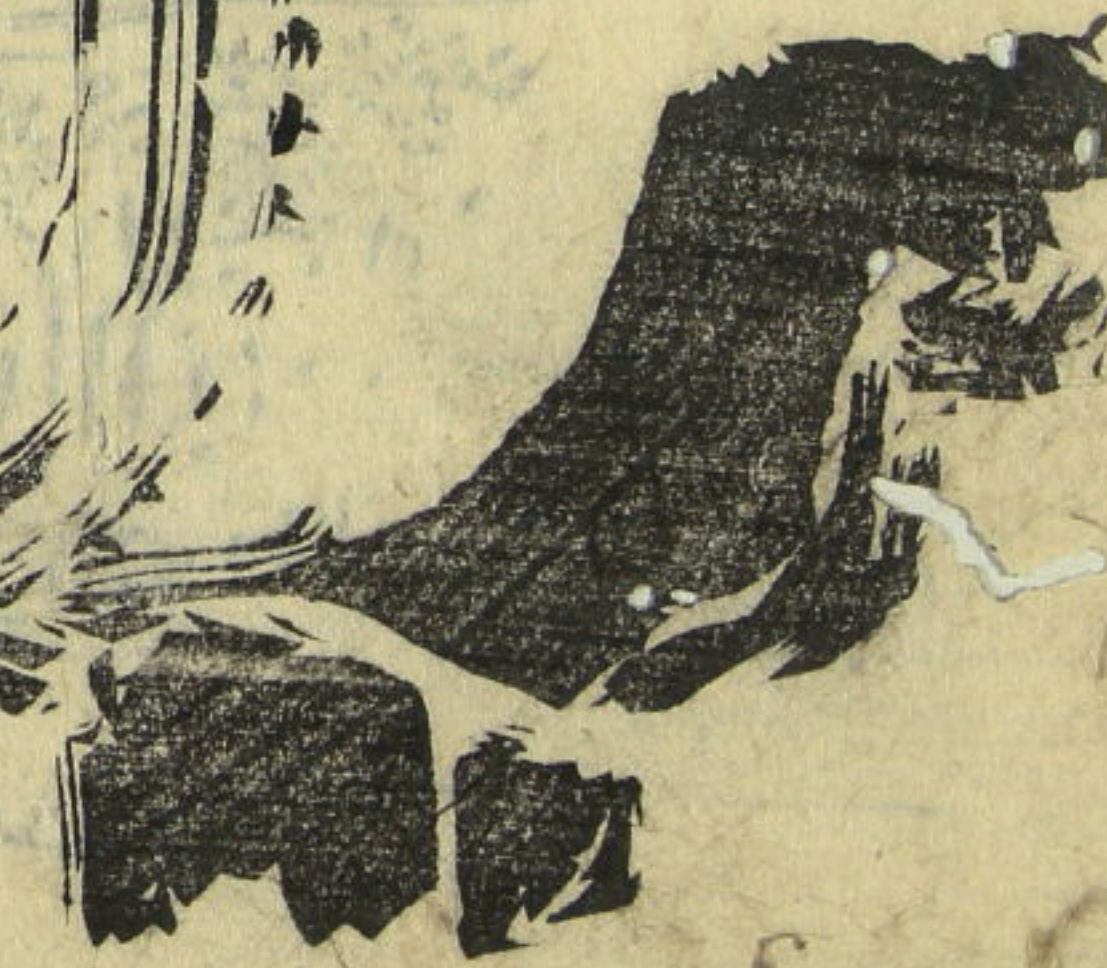
と

梅

握

出る

女うね



武淵

新の席糸

まゝり初花乃

足越る

と傳る

松茂る小芥

振あけ次

花一本

伊丹

陣房



計船や

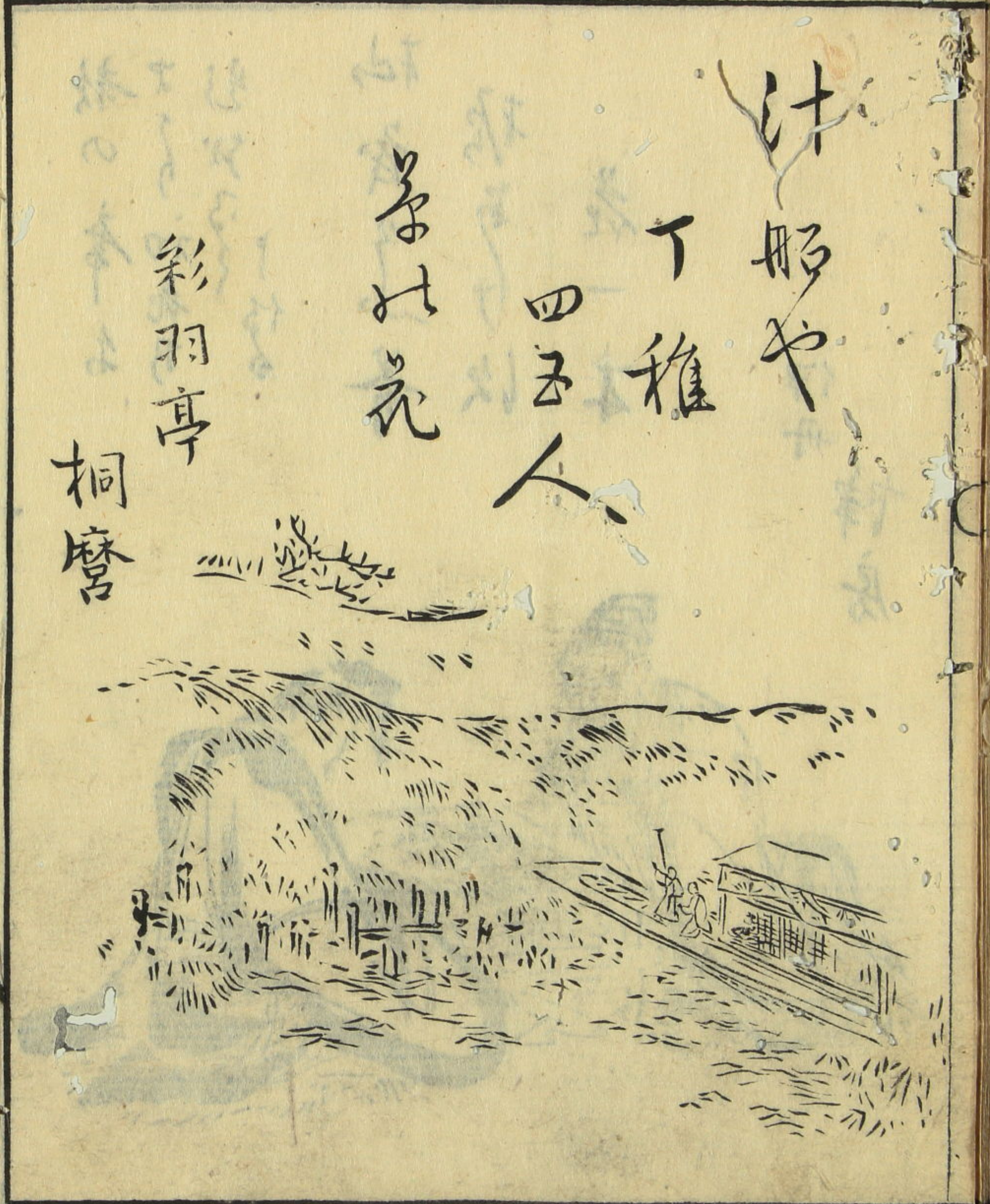
丁稚

四五人

草花

彩羽亭

桐磨

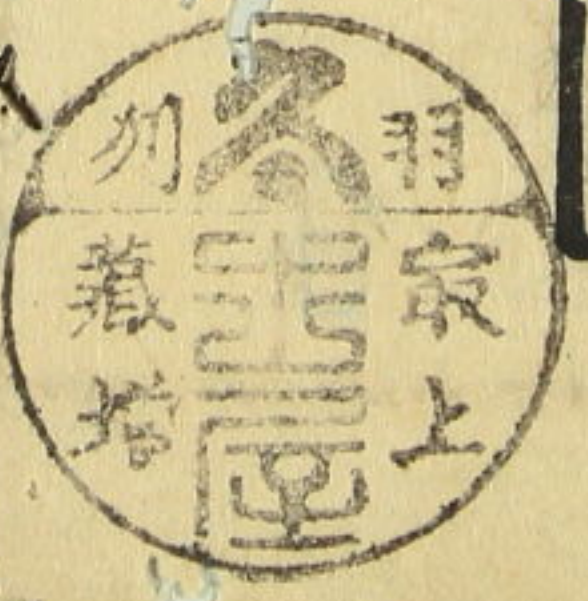
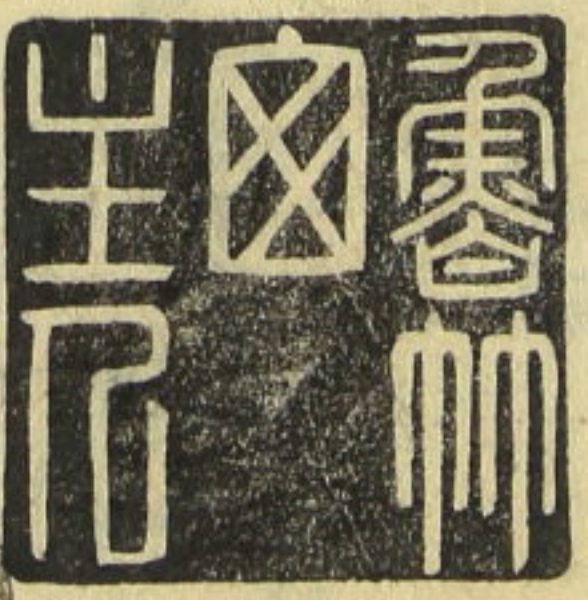
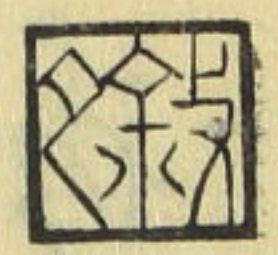


句ハ草花子影ある
お花の影ある
は時平の句も又多
其句ハ花を細る
に置る人物の影
水底の影ある

松能影子ありて
 雲免はじきま
 長へり今をいふ
 ものい今影新
 百年のいふ
 如きふ雲の影
 するあり此楫
 あり其影をさ
 あり影は影あり
 ありて影あり
 ありて影あり
 ありて影あり

乃水
名
長
子
教
父
殿

乃水
長
子
教
父
殿



乃水
長
子
教
父
殿

乃水
長
子
教
父
殿

乃水
長
子
教
父
殿

乃水
長
子
教
父
殿

